

令和元年度 奈良県知事賞

「地方消費税の大切さ」

西大和学園中学校 三年 西裏 咲希

先日、私は家族で奈良県のショッピングモールへ買い物に出かけました。そこで、「地方消費税クイズ」というイベントをしていたので、母とそのクイズに参加しました。内容は、「奈良県民が一番多く買い物をするのは県内である。○か×か。」というもので、奈良県民である私は「近くのスーパーへ行くことが多いから○かな。」と思ったのですが、答えは×でした。奈良県の一人あたりの地方消費税収額はなんと、全国ワースト二位であつたり平成二十一年には、県民の県外での購入割合が全国一位になっていた、ということを知りました。消費税八%のうち、一・七%が県と市町村の収入となる地方消費税で、それらは小・中・高等学校教育や下水道や道路の整備、医療や福祉の充実など、身近な行政に生かされているそうです。たしかに、言われてみれば、私も学校が休みの日に友達と遊ぶ約束をするのは大阪ですし、友達とショッピングに出かけるときもだいたい大阪であることが多いですが、私達が奈良県内で買い物をすると、奈良県内に入る地方消費税が増えて、私の住む町の行政への交付金も増えるので、私の町の暮らしも、より質の高いものになるのではないかな、と気づきました。

私の住んでいる町には、お年寄りがとてもたくさん住んでいます。昔ながらの細い道も多く、もっとバリアフリーにするべきところはたくさんあるし、点字ブロックの設置や、医療や福祉の充実にも、もっと税金を生かしてもらい、住みやすい町になると良いなと思います。

また、買い物に限らず、食事をするときでも、その食事代にかかる消費税の一・七%が県と市町村にあてられる、と知って、奈良県には美味しいお店がたくさんあるので、奈良県外に住む人にもっとプロデュースして、多くの人が奈良県を訪れてほしいなと思っています。

「奈良には何もない」「大阪のほうが良さそう」などとよく耳にしますが、奈良県の良さをもっと多くの人に知ってもらい、県民の意識からまず、買い物やお食事は県内でできる限りすることが、私達の住む各市町村の開発や発展に深くつながりがある、ということを知り、県内に広めていくことが大切だ、と感じました。

これからも、税金と隣合わせで生活していく中で、社会をより良くしていくために何か私達にも協力できることがないかを考えてみたいと思います。